

平成28年度事業計画

2016. 3. 4

[主旨]

中国、北朝鮮による政治的緊張の中、2015年夏の中国経済の急速な低下に伴う、世界経済の低迷がなお、今後も継続する見込みである。

特に中小企業においては、既に長年に亘って景気低迷が続いており、その打開策としては、地域の個性を踏まえた、普遍的な価値を持つ質の高いものづくりが課題である点は変わっていない。

そこで、デザインをエンジンにして、付加価値、経済価値の高いものづくりを働きかけていくことが我々の課題である。

大阪デザインセンターは、平成26年4月1日に一般財団化し、「民に近い公益」の見地から諸事業を進めようとしている。平成26年度、27年度は、「中期ビジョン」、「中長期計画フレーム」を指針として取り組み、事業としては、人材育成事業を再編して、デザインシンキングの観点を取り入れ、デザインビジネスでは、商流、マーケットの観点を付加して、販路開拓支援にも取り組んだ。

いまだ、安定的な経営の道筋は見えていないが、各事業単体としては、直接事業費と参加料等の収入に大きな欠損を生まずに実施できており、その差額と、ベースの人件費、賃料等の団体運営経費を公益目的財源に頼るという構図となっている。

今後の事業選定に当たっては、外部からの資金援助を探索し、従来のJKA競輪からの補助金に加え、経済産業省の各種補助金、委託金の趣旨を十分把握し、導入したい。

来年度事業の決定に当たっては、現在の「中長期計画フレーム」が、6つの事業グループを並列に置いていたので、メインテーマが何かが分かりにくく、当財団自身がどんな役割を担うのかが、不明確であったので、今回、「中長期事業スキーム」を提案して、デザインの使命、ODCの役割、事業グループごとの目的を明確化したい。

ODCの役割としては、デザインを活かした新たな価値創造の機会づくり、場の設定を担う。

事業スキームは、①価値創造開発軸、②情報価値共有軸、③国際軸 の3軸である。

新規項目としては、各種の知財、技術、素材などのシーズを見える化、カタチ化する「デザインエンジニアリング」に取り組む。

従来の人材育成事業は、「価値を生む人間を育てる」という視点から見直す。

また、JDF国際デザイン交流協会の資産を受け継いでいるので、国際デザイン交流にも積極的に取り組み、フランスとの具体的なデザイナーの交流を始めたい。

一方、関西、日本のデザインの振興・活用のためには、当財団だけでなく、デザイン関係者、企業、有識者、官公庁などと方向性を合わせ、役割分担を行い、資源を有効に投入しなければならない。このような方向合わせの場として、「大阪デザインカウンスル」を設置して、具体的な協議を目指すこととしたい。

[事業計画]

事業費総額 72,482 千円

予算額は直接事業費支出（主に、事業に直接必要な物件費）を記載している。

I （価値）開発軸 （事業費 13,115 千円）

1. 人材育成 （JDF 事業費 11,115 千円）

① デザインシンキング・ワークショップ （JDF 事業費 800 千円）

イノベーションにあたっての問題分析、課題設定能力を高め、アイデアを生み出すメソッドを理解し、実践できる人材を養成する。

一人のデザイナーを講師として、社会状況把握、課題抽出、提案、プレゼンテーションと、ステップごとの講義を行ったうえで、デザインシンキングメソッドは実学であるので、グループに分けてワークショップ研修を行う。

時期 平成 28 年度内に 11 月から 12 月まで全日を 3 回（週に 1 回程度）

場所 ODC SEMBA 会議室

参加料 @4 万円×5 人×3 グループ

② デザインプロデューサー育成講座 （JDF 事業費 1,000 千円）

今後必要とされるビジネス・パーソンとして、命題に対して美しい答えを見える化できる「ソリューション能力」のある人、市場ニーズ、商流を理解して、経営的な観点から商品や仕組みをプロデュースできる人材を養成する。

時期 平成 28 年度内に 7 月から 8 月まで 7 回。平日の夕刻（週に 1 回程度）

場所 ODC SEMBA 会議室

参加料 @6 万円×15 人

③ デザイナー・開発者のための販路・市場講座 （JDF 事業費 800 千円）

現在のモノ余り成熟社会では、「市場動向に合致」していて、かつ、「良い」商品でないと売れない。

消費者ニーズ、販売者の意図を正確に捉えて、ニーズに対応するだけでなく、ニーズを先取りし、呼び起こすような戦略的な商品開発に結びつける。

時期 平成 28 年度内に 1 月に全日を 3 回（週に 1 回程度）

場所 ODC SEMBA 会議室

参加料 @4 万円×15 人

④ デザイン・インターンシップ

(JDF 事業費 3,450 千円 J K Aからの補助金 1,724 千円予定)

デザイナーを目指す学生にデザイン事務所で実際に学ばせ、デザインスキルや企画提案能力、コミュニケーション能力や社会人としての礼儀、マナーなどの必要性を学ばせる。

時期 夏休み期間中の 14 日間、20 人の学生が 20 か所のデザイン事務所で、実地研修を行う。

⑤ 産学連携ものづくりデザインサポート

(JDF 事業費 3,077 千円 J K Aからの補助金 1,539 千円予定)

デザイン専門学校生・大学生とものづくり中小企業の出会いの機会を提供して、学生には生産現場でのデザイン開発体験を、企業には若い人の斬新なアイデアの導入を促す。企業 8 社と、学生 40 名を募集して、グループに分かれて、企画、提案、制作を経てデザイン提案を行ってもらおう。

h28.5～ 参加企業募集 h28.6～ 学生募集 7月マッチング会

7-9月 学生の企業訪問 プレゼン1 10月 プレゼン2 11月

最終プレゼン 12月

参加料 企業から@5万円×8社 学生参加は無料

⑥ キッズデザイン (JDF 事業費 1,000 千円) 【新規】

小中学生向けの、デザインを活かして創造性を高める教育カリキュラムの開発を検討する。

絵本の読み聞かせや造形物のテーマを与えられて、子供たちが、どう感じて、何を、どうやって表現するかを工夫し、また、自分の考えを他の人に伝え合って、違う考え方を学び、その表現方法の技術的向上も指導する。

実証モデルとして、子供向けイベントも実施する。

⑦ デザイン・シンポジウム

(JDF 事業費 988 千円 J K Aからの補助金 493 千円予定)

現在でも、デザインは、姿、形の外観をよくするものというとならえ方が多いが、企業経営や社会課題を解決するためにも、デザイン思考法を活用することが有効である。

市民やビジネスマンに、デザインの力、価値を理解してもらうための啓発シンポジウムを開催する。

時期 平成 29 年 1 月 14 日 (土) 13:30~16:30

場所 大阪市立中央図書館

テーマ デザインの力 「ソーシャルデザイン」(仮)

参加料 無料

2 デザイン研究開発

(1)デザインエンジニアリング (ODC事業費 2,000 千円) 【新規】

知財、素材、技術、地域文化などのものづくりのシーズに着目して、デザインをエン

ジンとしたカタチづくりの機会を創出し、デザインビジネスにコミットしていく。

- ① 大学の知財を活かした商品化プロジェクト
- ② 企業のモノづくり技術に人間工学の知見を活かすプロジェクト
- ③ 各企業の強み、弱みを組み合わせるプロジェクト

Ⅱ (価値) 共有軸 (事業費 38,683 千円)

1 デザイン情報の共有、交流 (ODC事業費 5,500 千円)

(1) 情報発信、ホームページの充実 (ODC事業費 4,000 千円)

当財団のホームページの構造を見直し、財団の目標、取り組み内容が正確に分かり易く伝わるように改善する。

経営資源としてのデザインの重要性を広く PR するとともに中小企業におけるデザイン活用促進の一助とするため、企業経営におけるデザイン開発事例、優れたデザイン事務所や業界団体の取り組みなどを紹介し、さらには学識経験者や専門性の高いデザイナーによるデザイン諸問題への提言など、ホームページ、プロモーションビデオ(新規)などを活用してデザイン情報提供を幅広く発信する。

関西のデザイン界の情報交流の場として、各団体のイベント情報、デザイナー募集記事も掲載して、機能増強を進める。

在阪を中心とするデザイナー、デザイン事務所の情報やポートフォリオなどデータベースを整備する。

co-design の成果等、書籍としてODCの活動結果が残せるように出版(新規)を検討する。

(2) サロン交流 (ODC事業費 1,500 千円)

デザイン関係者だけでなく、ものづくり企業、官公庁等幅広い方々が気楽に集まって交流を図り、情報発信できる場をもつため、当財団所有の船場会議室を開放して、デザイントークと交流の場、「SEMBAサロン」を開催している。

うめきたのナレッジサロンは、関西の産・官・学のイノベーション拠点として、多彩な人々の結集拠点となっているので、引き続き、デザイン関係者がサロン入会を希望する場合の便宜を図り、連携・活用をしていく。

2. 大阪・関西のデザインに対する発信力強化

(JDF 事業費 22,358 千円)

(1) 「OSAKA STYLING EXPO」

(大阪商工会議所との連携事業 JDF事業費 16,476 千円)

大阪商工会議所および大阪スタイリングエキスポ実行委員会(事務局:大阪商工会議所)が実施する「OSAKA STYLING EXPO」に主催者の構成団体として参画する。平成22年度から参画しており、今回で7年目となる。

同事業は、大阪らしいライフスタイルの発信を通じ、大阪の賑わい向上とファッション・ライフスタイル関連産業の振興に貢献することを目的とし、関西で活躍するクリエイター等が創り出す商品の中から、消費者に支持される商品をコーディネートし、「OSAKA STYLING」として発信することにより、消費の刺激、消費者起点の商品開発、新進クリエイターの発掘・育成等に資するものである。プログラムは FASHON 部門と LIVING 部門で構成され、いずれも秋の開催を計画している。

FASHON 部門は、メーカーの合同ファッションショー、新進ブランドの合同ファッションショーを中心に構成する。LIVING 部門では、大阪人の価値観に調和した優れたデザインや新しいライフスタイルの提案で毎日の生活を彩るプロダクトを募集、選定した商品の展示・販売会や各種催しを大阪市内の商業施設（高島屋大阪店を予定）で開催する。

（主催者である大阪スタイリングエキスポ実行委員会の構成団体は、当財団のほか、大阪商工会議所、大阪市、関西経済同友会などである。）

(2) 展示会等による情報発信（大阪市との連携事業 JDF 事業費 5,882 千円）

① 「LIVING & DESIGN 2016」への出展（JDF 事業費 1,400 千円）

「住まいと暮らしのリノベーション」をテーマに 2010 年から開催されている西日本最大規模の住空間の国際見本市に出展して、企業や流通関係者、一般市民に、デザインを活かしたものづくりの意識啓発を進め、大阪のデザイン力を広く PR する。

1. 実施時期 平成 28 年 10 月 12 日（水）～14 日（金）（3 日間）
2. 場 所 大阪南港 ATC ホール

② デザイン関連の様々な展示会、イベント等を実施又は誘致することで、大阪のデザイン力を発信し、デザインについての意識啓発を行う。（JDF 事業費 4,482 千円）

- ・アールブリュット・・・1 回（H28 時期未定）

福祉活動におけるデザイン活用事例の普及とデザイナーによる福祉関連活動への啓発

- ・デジタルアート・・・1 回（H28 時期未定）

アートを通じた知育とデジタルアートデザインの普及啓発

- ・関西デザイナーズライブ・・・1 回（H28 時期未定）

関西のクリエイターの作品紹介を通じて異業種へのデザイン啓発

3 デザインビジネスマッチング、ビジネス支援（ODC事業費 7,825 千円）

① デザインビジネスプロモーションセンター（ODC事業費 6,825 千円）

デザイン導入による中小企業の活性化を促進するため、デザイン相談窓口の設置、デザイン事務所の紹介、専門アドバイザーの派遣・コンサルティングなど、企業とデザイン業界とのビジネスマッチングに引き続き取り組むとともに、マッチングにおける成果事例についても積極的にホームページを活用して情報発信する。

デザイン事務所の紹介、専門アドバイザーの派遣・コンサルティングを実施した際に、

依頼企業から手数料をいただくことを検討する。

また、大阪産業創造館や外部機関と積極的に連携を図り、デザイナーとの個別マッチングやイベント出展、情報提供など、より多くの中小企業のニーズに対応できるよう取り組みます。

② ビジネス支援 (ODC事業費 1,000 千円)

地域伝統製品の高度化、六次産業化、地域創生などの地域課題の解決のために、デザイン手法が活用されるように働きかける。

また、デザイン商品の販路開拓支援のために、販売ショールーム URIMA をセンター事務室内に設置している。

4 事業企画 (ODC事業費 3,000 千円)

(1) 大阪デザインカウンスルの設置、事業スキームの精査 (ODC事業費 2,000 千円)

関西のデザインの方向性を協議する場として「大阪デザインカウンスル」を置く。その中で、ODCとしての役割を明確化して、具体的な事業計画を定めていく。

検討に当たっては、デザイン関係者、企業、官公庁のほか、有識者の知見を活かす。

(2) 商品パッケージ企画実習講座 (ODC事業費 1,000 千円)

パッケージも商品の一部ととらえ、基礎知識から効果的に展開できる企画手法、デザインに取り組む留意点などを、グループワークも交え、体感的に修得する。

時期 4月20日(水)～6月8日(水)7日間 16～19時

場所 ODC SEMBA 会議室

参加費 6万円(賛助会員は5万円)

Ⅲ 国際軸 (JD F 事業費 16,484 千円)

1 国際的なデザイン交流 (JD F 事業費 13,484 千円)

国際デザイン交流協会の理念を受け継ぎ、世界と日本とのデザイン交流を進める。

① 国際デザイン交流による地域デザイン力強化のためのプラットフォーム形成事業 (JD F 事業費 10,000 千円 特許庁定額補助 10,000 千円予定) 【新規】

フランスとの間で、デザイナー及びものづくり事業者が、相互理解に基づく交流を通じて、新たな価値を発見・創造することを目指し、実際に人と人との交流をスタートさせ、双方の地域固有の素材や技術を知り、商品の作り手の価値観に触れる機会を効果的かつ継続的に提供できる交流プラットフォームを形成する。

交流窓口として、日本側は(一財)大阪デザインセンター、フランス側は A. P. C. I (フランス工業創作振興会) とする。

1. 交流のための「先導的仕組みづくり」を A. P. C. I と協議

2. 国内外デザイナーとものづくり事業者との事業交流

(a) フランスから専門家3名を招聘してセミナーの開催、(b) 国内参加5社のワークブレイス訪問及びワークショップ、(c) 2名を2週間招聘してインターンシップ

3. 人材育成プログラム 国内参加10名にデザイン力強化研修を行う。

参加料 無料

② 国際デザイン交流協定 (JD F 事業費 1,000 千円) 【新規】

シンガポール、インドネシア等の東南アジア諸国のデザインセンターとの交流を深め、デザイナーや企業が相互に協力できる、包括的な友好交流協定の締結を検討する。

③ 国際的なデザインに関する意識啓発事業(大阪市との連携事業)

(JDF 事業費 2,484 千円)

フォーラムの実施により、デザイナー・クリエイターの海外展開に向けた育成を目指し、デザイナーやクリエイターに対して国際的なデザインについての意識啓発を行う。

アジアで活躍する各国のデザイナー・クリエイターを招聘し、それぞれの国の文化や魅力を知る機会を提供するとともに、大阪のデザイン力を発信

2 海外販路開拓支援 (JD F 事業費 3,000 千円)

① コロナプロジェクト

フランスマーケットの実情に詳しく、どのようなブランド戦略、モノづくり、どのような販路に乗せればよいのかを、アドバイスしてもらえ、質の高いマーケット・アドバイザー ジャン・リュック・コロナ 氏から指導してもらう。

h27 年度に続き、2年目。

<日程、内容>

2016. 9. 6 (火) 各社パリに現地集合して、各自、メゾン・エ・オブジェを視察する。

2016. 9. 7 (水) 10:00~17:00 コロナ氏の講義とクリニック JETRO パリ事務所にて。

最初の1時間で、フランス市場の講義を受ける。

1社30分~50分で、各社の商材を持参して、フランス市場での販売可能性、販売店想定クリニックを受ける。

2016. 9. 8(木) パリ市内数か所のセレクトショップをチャーター・バスで巡回して、現場での販売形態、各社にふさわしい店舗等の実地指導を受ける。

2017. 2. 大阪にて、コロナ氏から各社に対して、第2回目の個別クリニックの予定。

<参加者> 10人程度

<参加費用>

1人 30万円 ODCの賛助会員は、1人 20万円

(これ以外に、パリへの渡航費、滞在費の自己負担が必要)

IV ODC関係 (ODC事業費 4,200千円)

(1) 賛助会員の加入促進

健全な財政運営を図っていくためには、自主財源である賛助会費収入の安定的な確保が不可欠であり、引き続き、ODCが行う諸事業を通して、積極的な加入促進に努める。

また、賛助会員には、各種デザイン情報のメール配信のほか、賛助会員証の発行、HPへの明示、業務発注便宜など具体的な会員サービスの強化策を実施する。

(2) (財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会

(財)国際デザイン交流協会から引き継がれた財産の管理や財産をもって行う事業については、(財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会(構成：大阪府、大阪市、大阪商工会議所、近畿経済産業局の役職員の中からそれぞれ1名を、理事会の同意を得て理事長が委嘱する。)で審議を行うこととしており、大阪・関西のデザイン振興に有効で効果的な事業が実施できるよう、引き続き運営委員会で協議する。

(3) 商工経済団体との連携強化

大阪商工会議所、大阪府中小企業団体中央会、大阪府商工会連合会、大阪市工業会連合会などの商工経済団体との連携を強化し、諸事業の積極的な展開を図る。

(4) 施設賃貸事業 (ODC事業費 4,100千円)

船場センタービル4号館に保有する142.12㎡の資産を有効に活用するため、3階部分は外部への賃貸を継続し、2階は貸し会議室SEMBAとして活用する。

(5) デザイン団体支援 (ODC事業費 100千円 受託収入 1,900千円)

大阪デザイン団体連合 USD-O、(公社)日本インダストリアルデザイナー協会 JIDA 関西ブロック、(公社)日本インテリアデザイナー協会 JID 西日本エリア、(一社)日本商環境デザイン協会 JCD 関西支部、あぷーん AP~N(Ageless Planning Network)からの委託を受け、各団体の事務局業務を推進し、各団体の支援に努める。